

**設問 I** マーク・シートの解答用紙を使用すること(【1】～【50】は問題の番号を、①～⑩は選択肢の数字を表している)。

以下の【1】～【30】はすべて「講義資料」のプリントからの抜粋だが、句読点や省略箇所などを若干変更したものもある。【1】～【15】については、その著者(手紙なら差出人)の<肖像>を、【16】～【30】については、その出典の<原題>を選びなさい。また、文中の空欄部分  に相応する原語(板書や口頭で補足した場合もあるし、訳語が同一とも限らない)を、【31】～【40】については<語群A>から、【41】～【50】については<語群B>から選びなさい。

- 【1】《私は 【31】 を破壊的な川の一つにたとえる。》  
 【2】《金は悪魔の言葉であり、これによって世のすべての物が創られる。》  
 【3】《人間は戦闘する必要に迫られていない場合には 【32】 から戦闘する。》  
 【4】《罨を見破るには狐である必要があり、狼を驚かすには獅子である必要がある。》  
 【5】《詐欺を知らない商売や地位はなくて、いかなる 【33】 にも欺瞞があったのだ。》  
 【6】《かように各部分は 【34】 に満ちていたが、全部そろえばまさに天国であった。》  
 【7】《【35】 はなんとまた美しいかな、/ なんとまた淡くはかなく消ゆるかな。/ 歓楽に溺れる人は、溺れな、/ 明日のこと定めある身と誰か知るかな。》  
 【8】《箱の中へ投げ入れられた金が音を立てるや否や、魂が 【36】 から飛び上がると言う人たちは、人間(のつくりごと)を述べ伝えているのである。》  
 【9】《【31】 の定めにより絹織物業のことも毛織物業のことも損得勘定のことも皆目わからない私には、【37】 を語るのが性に合っているのです。》  
 【10】《近代資本主義の萌芽は、オリエントや古典古代とは違って、徹底的に資本に敵対的な経済学説が公然と支配してきた地域に求めなければならない。》  
 【11】《アダムよ、……おまえは、いかなる束縛によっても制限されず、私がおまえをその手中に委ねたおまえの 【38】 に従っておまえの本性を決定すべきである。》  
 【12】《余は箱船をつくっている。それはほとんど完成に近づいた。今こそその扉はとざされるであろう。洪水は近づいている。悔い改めた人々は、急いで中に入るがよい。》  
 【13】《宗教はどうしても勤労と 【39】 を生み出すことになるし、また、この二つは富をもたらすほかはない。……こうして宗教の形は残るけれども、精神はしだいに消えていく。》  
 【14】《私たちは、神が個々の人間についてしようとしたことを定める神の思慮を「予定」とよぶ。なぜなら神は、すべての人間を平等な状態につくったのではなく、あるものを永遠の生命へ、あるものを永遠の断罪へと定めたのだから。》  
 【15】《もしも神があなたがたに、(みずからの魂も他の人々の魂も損なうことなく)合法的に、しかも、他の方法によるよりもいっそう多くを利得しうような方法を示したもうた場合、もしもそれを避けて利得の少ない方法をえらぶとすれば、あなたがたはみずからに対する 【33】 の目的の一つに逆らい、神の 【40】 としてその賜物を受け取って、神の求めたもうときにそれをかれのために用いることを拒むことになる。》

<肖像>(数字は生没年)

①1449-1492



②1452-1498



③1463-1494



④1469-1527



⑤1483-1546



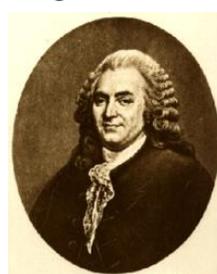
⑥1509-1564



⑦1615-1691



⑧1670-1733



⑨1703-1791



⑩1864-1920



<語群A>

- ①Ambizione      ②Arbitrium      ③Calling      ④Fortuna      ⑤Frugality  
 ⑥Giovinezza      ⑦Prugatorium      ⑧Stato      ⑨Steward      ⑩Vice

- 【16】《【41】の自然の効果は平和へと向かわせることである。》  
 【17】《貴族が君主政において【41】を営むのは、君主政の精神に反している。》  
 【18】《人間は自由なものとして生まれたが、しかもいたるところで鎖につながれている。》  
 【19】《【42】と知識と人間性とは、解き離し難い鎖でつながり合っている……。》  
 【20】《[コモン・ウェルスにとって]和合は健康、争乱は病気で、【43】は【44】である。》  
 【21】《詩人にとっては、金と銀が、哲学者にとっては、鉄と小麦が、人間を文明化し、人類を墮落させたのである。》  
 【22】《古代の政治家はたえず習俗と徳について語っているが、現代の政治家は【41】と金銭についてしか語らない。》  
 【23】《もしも政府に服従しなければならない義務の理由を問われたら、わたくしは、即座に、そうしなければ社会が存続できないからだ、と答える。》  
 【24】《大地と人間以下のすべての被造物はすべての人々の共有物であるが、しかしすべての人間は、自分自身の身体に対する【45】をもっている。》  
 【25】《ある土地に囲いをして、「これはおれのものだ」というのを最初に思いつき、それを信じてしまうほど単純な人々を見つけた人こそ、政治社会の真の創立者であった。》  
 【26】《人びとを平和に向かわせる諸情念は【44】への【46】であり、快適な生活に必要なものごとに対する意欲であり、それらをかれらの【42】によって獲得する希望である。》  
 【27】《だから、【47】は正義よりも、社会の存在にとって、不可欠ではない。……それは、建物を美しくする装飾であって、建物をささえる土台ではなく、したがってそれは、すすめれば十分であり、けっしておしつける必要はないのである。》  
 【28】《わたしたちは危機の状態と【48】の時代に近づきつつある。……人間がつくったものはすべて人間がぶちこわすことができる。自然が押し出したしほのほかに消すことのできないしほはない。そして自然は王侯も金持ちも貴族もつづらないのだ。》  
 【29】《われわれが自分の食事をとるのは、肉屋や酒屋やパン屋の博愛心によるのではなくて、かれら自身の利害にたいするかれらの関心による。われわれが呼びかけるのは、かれらの博愛心にたいしてではなく、かれらの【49】にたいしてであり、われわれがかれらに語るのはわれわれ自身の必要についてではなく、かれらの利益についてである。》  
 【30】《自然がこれのようにしてわれわれをだますのは、いいことである。人類の【42】をかきたて、継続的に運動させておくのは、この欺瞞である。……かれら[富裕な人々]は、【50】に導かれて、大地がそのすべての住民のあいだで平等な部分に分割されていたばあいには、なされたであろうのとほぼ同一の、生活必需品の分配をおこなうのであり、こうして、それを意図することなく、それを知ることなしに、社会の利益をおしすすめ、種の増殖にたいする手段を提供するのである。》

< 原題 > (数字は出版年)

- ① *Leviathan*, 1651.
- ② *Two Treatises of Government*, 1690.
- ③ *De l'Ésprit des Lois*, 1748.
- ④ *Political Discourses*, 1752.
- ⑤ *Discours sur les Sciences et les Arts*, 1750.
- ⑥ *Discours sur l'Origine et les Fondements de l'Inégalité parmi les Hommes*, 1755.
- ⑦ *The Theory of Moral Sentiments*, 1759.
- ⑧ *Du Contrat Social ou Principes du Droit Politique*, 1762.
- ⑨ *Emile ou de l'Éducation*, 1762.
- ⑩ *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*, 1776.

< 語群 B >

- |                      |                         |                   |                      |                    |
|----------------------|-------------------------|-------------------|----------------------|--------------------|
| ① <i>Beneficence</i> | ② <i>Civill War</i>     | ③ <i>Commerce</i> | ④ <i>Death</i>       | ⑤ <i>Feare</i>     |
| ⑥ <i>Industry</i>    | ⑦ <i>Invisible Hand</i> | ⑧ <i>Property</i> | ⑨ <i>Révolutions</i> | ⑩ <i>Self-love</i> |

**設問Ⅱ** 論述用の解答用紙を使用すること。弁解や嘆願は「不可」、白紙答案(学籍番号・氏名等は必ず記入)は「欠席」とする。

「共和主義」「国家理性論」「宗教改革」「社会契約説」「奢侈論争」をキーワードとして、近世ヨーロッパにおける「経済学の生誕」の画期性と問題点を、具体的な事例に即して、できるだけ詳しく論じなさい。

- \* 本文の前に論旨をアピールするようなタイトルを付けること。また、(上の5つ以外でも)本文中のキーワードは下線で強調すること。  
 \*\* 設問Ⅰで出題された文章を使う場合は、必ずその背景や意義を説明すること(ただ書き写すだけでは無効)。なお、答案の文中では、<肖像>の人名はカタカナで表記、<原題>の書名も日本語訳すること。出題されなかった文章はもちろん、担当者が講義で取りあげたり、あなたが関連して繙いたりした、他の一次資料(思想家の著作)や二次文献(研究書)にもなるべく多く言及することが望ましい。

